

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立本村小学校 第6学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査や市販のワークテストの結果、漢字の書き取り問題の正答率が80%以下の児童が40%程度いる。 ・全国学力・学習状況調査の結果、自分の考えを伝えるように文章で書き表すことができていない児童が50%程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の小テストを定期的に行い、反復することによって定着を図る。文章を書く際には、既習漢字は確実に使うようにする(漢字・言語に関するワークテスト平均70点以上。) ・月2回以上、意見文や体験報告(日記・作文)を書かせる(筋道を立てて、自分の考え、体験報告を書ける児童70%以上)
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査や市販のワークテストの結果、分数の通分や約分の平均正答率が79点。 ・全国学力・学習状況調査や市販のワークテストの結果、文章問題から立式できていない児童が30%程度いる。(ワークテストの「思考・判断・表現」平均76点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に5分間のスキルアップタイムを設け、継続的に計算練習を行って四則計算を基本とした計算力の向上を図る。(ワークテスト平均80点以上) ・集団解決する場を多く設けることで、自分の考え方や解決方法を説明したり、他者の考え方や解決方法を解釈して、その求め方を考える。(ワークテストの「思考・判断・表現」平均80点以上)
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・市販のワークテストの結果、実験方法を正確に理解していない児童が50%程度いる。 ・授業のノートチェックの結果、問題に対して、予想を立て、解決方法を考えることができていない児童が30%程度いる。。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で既習内容と関連するものを例示し、日常生活の中でどのように生かされているかを考えさせる。(予想や実験の流れを図にして書くことができる児童80%以上) ・生活経験や既習事項などを導入で提示し、予想の手助けになるような工夫をする。(予想を立て、解決するために実験の流れを図にして書くことができる児童70%以上)
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都統一体力テストの結果、男子の反復横跳び、女子の50m走において全国平均より5ポイント以上低かった。 ・ワークシートの記載を見ると、自分の課題を見つけ、課題解決のための練習を選択しようとしている児童は40%程度にとどまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入において、走る・跳ぶ・投げる運動、なわとび・鉄棒運動などの時間を設定する。 ・運動時間の確保として、補助運動、主運動含めて30分以上確保する。 ・1単元に2～3回、タブレット端末を導入し、児童が運動している様子を撮影して自分で確認したり、映像を見せながら友達にアドバイスしたりする学び合いの場面を設定する。